

## 事業所名 グループホーム小町

## 運営推進会議等開催報告書

開催日時 令和 6年 2月 16日（金）14時00分～ 14時 35分		
参加者		議題
利用者	0名	1 行事報告
利用者家族	0名	2 今後の行事報告
地域住民の代表者	0名	3 利用者様状況報告
市職員	1名	4 身体拘束適正化検討委員会の議題
地域包括支援センター職員	0名	5 質疑応答
事業所	2名	6 次回会議開催予定日
会 議 録		
<p>☆新型コロナウイルス・インフルエンザ感染拡大防止対策について</p> <p>新型コロナウイルス感染症が感染症法の5類に位置づけられ、社会からは既に感染が収束したかのような雰囲気を感じられます。5類移行後も昨年夏には流行が起こり、令和6年に入ってから徐々に感染者が増加傾向に入っています。まだまだ今後も感染対策は必要と考えておりますので、手洗いやうがい、消毒や換気などを小まめに行いつつ、ゆったり・にっこり生活して頂ける様に支援をしていきます。</p> <p>1. 行事報告について</p> <p>《1月》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1日昼食におせち料理を召し上がりました。</li> <li>・1日に書初めを行いました。</li> <li>・16日に利用者様のお誕生日会を行いました。（お寿司・イチゴのバースデーケーキ作り・プレゼントをお渡しなど。）</li> <li>・17日に近隣の神社へ外出をして、ご参拝をしました。</li> </ul> <p>《2月》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4日に恵方巻きづくりをして、夕食に召し上がりました。</li> <li>・6日に訪問理美容がありました。綺麗さっぱりすることができました。</li> <li>・11日に利用者様のお誕生日会を行いました。（お寿司・イチゴのバースデーケーキ作り・プレゼントをお渡しなど。）</li> </ul> <p>2. 今後の行事予定</p> <p>《3月》</p>		

- ・ひなまつり行事を行う予定です。

### 3. 利用者様状況報告

- ・ 8名利用（男性入居者 0名 女性入居者 8名）  
平均年齢 88歳（最低年齢者 82歳）（最高年齢者 97歳）  
平均要介護度 2.38

### 4. 身体拘束適正化検討委員会の議題

#### 議題

「徘徊による身体拘束について」

#### I 徘徊とは何か？

- ・ 認知症の周辺症状の一つです。家の中だけでなく、外に出てあてもなくウロウロと歩き回る事です。他者から見れば意味もなく歩き回っている様に見えますが、本人にとっては何かしらの意味があります。目的があって行動しています。
- ・ 「徘徊をするから」という理由で椅子や車椅子、ベッドなどに身体を紐で縛ったり、部屋から出られない様に閉じ込めてしまったり、言葉で罵ってしまったり、薬の過剰な服用をさせて動けなくしたりするなどの自由を奪う行為は、身体拘束となります。

#### II 徘徊の原因

- ・ 原因がわからない徘徊(周回・常同的徘徊)があります。例えば山があるから登るように、廊下や空間があるから歩くなど、人の活動として徘徊していることです。対策としては、安全に歩ける様に環境を整えたりします。また休息を入れながら歩行してもらうなどをします。
- ・ 原因や目的がわかるものは、それらに対応していきます。例えばわかりやすいのは、場所や状況がわからず迷子になったり、家族を探したり食べ物を探したりする徘徊です。理解しにくいのが、何かしらの不安感や混乱、不安や焦りを抱えている徘徊です。どちらも徘徊そのものを問題と捉えずに、原因や目的を究明してそれを取り除く事が重要です。そのため、アセスメントし、利用者の状況を理解し、不快や不安、混乱を軽減・緩和していきます。そうすることで、利用者の落ち着きが得られ、徘徊の頻度や徘徊に伴う転倒などの危険性が低下していきます。

#### III 徘徊のアセスメントと対策

##### ① 身体面からのアプローチ

- ・ 徘徊が身体的な疾患・症状から始まるケースも多々あります。認知症に徘徊はつきものと決めつけず、観察や診察をし、病気の原因がわかればその対策をとります。また治療する為の薬剤によっては尿の量を増やしたり、不穏やせん妄を起こしたりする性質のものもあります。それらの使用をきっかけに落ち着かない・徘徊するなどの症状が始まったりしたら、医師と相談します。

## ② 心理面からのアプローチ

・認知症の利用者も孤独や寂しさ、不安、屈辱、退屈などいろいろなことを感じます。それを上手く表現できなかつたり、現実に行動するときに現実とミスマッチな言動になってしまうことがあります。そのひとつの表現として徘徊として表面化することがあります。挨拶やスキンシップ、柔らかな声掛けをする、馴染みの関係性を構築していく、役割を持ってもらうなど、利用者が心理的に安定できるようにアプローチすることが大切です。また、正面から対応するだけでなく、利用者の気持ちの持ち方や行動パターンを利用して目先を変える試みも取り入れると成功することもあります。

## ③ 職員によって提供されるサービスへの反応として徘徊が始まることもある

・5つの基本的ケア(起きる・食べる・排泄する・清潔にする・活動する)の不足はないか、食事や水分の補給はしっかり行えているか、清潔や排泄のケアはしっかりできているか、日中の活動量、活動と休息のバランスなど、アクティビティは適切にできているかを考えます。また、職員の態度が悪ければ利用者は簡単に興奮したり歩き出したりします。認知症が重くなれば、利用者の反応は、「心地良いか、良くないか」「自分はここにいて良いのか、いけないのか」などに単純化されます。利用者の様子をよく観察し、はたして快適なサービス提供ができているか振り返ってみることが重要です。

## IV まとめ

・徘徊の原因や目的を把握するには、利用者の状況を観察し、理解することが大切です。不快・不安に対するケアを行うことで事故のリスクが軽減されます。

・高齢者でも認知症でも同じ「人」であることに変わりはないです。「どうせわからないから」「管理しやすいから」といった理由で安易に縛ったり固定したり、閉じ込めていいものではありません。人としての尊厳を大切に、介護をしていくことが本当の意味で人を介護するということだと考えます。そして身体拘束に頼って介護を日常的に行ってしまうと、職員はそれ以外に介護の仕方に混乱し、何か起こった際に「身体拘束しなかったからこうなった」という考えになってしまいます。そうならない為にも多職種との連携や家族との連携を大切に、チームアプローチをすることが大切です。徘徊について、また身体拘束についてきちんと理解をして、職員一人一人に意見や考えを出してもらいながら、改善して行動していくことが重要です。

## 5. 質疑応答

・徘徊についてですが、冒頭に「山があるから登る」という例えがわかりやすかったです。グループホーム小町では徘徊する入居者様はいらっしゃいますでしょうか？またそういった時にどのように対応したり接していたりされていますでしょうか？（瀬戸市役所高齢者福祉科様）

→ご質問ありがとうございます。徘徊をする入居者様はいます。そういった場合は、まずは優しく柔らかい言葉掛けをします。「〇〇さん、どうされましたか？」「何かお

困りごとはありますか？」など。他にはグループホーム小町には、日光浴ができる日当たりの良いテラスがありますので、イスやベンチに座ってお話を傾聴したり、話題を変えたりしながら、ゆっくりと外の風に触れて頂く事で心が落ち着かれることがあります。また就寝時の徘徊の場合は、落ち着かれるまで寄り添ってお話を聞いたり、あたたかい飲み物を提供したりするなど、その人の状態を観察して臨機応変に対応をして支援をしています。

6. 次回の運営推進会議開催予定日

2024年4月26日(金) 14:00～ 開催予定となります。

以上